

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）

国際会議助成

2015年度研究成果報告書（A, B, C）

1. 会議概要

会 議 名		和文	第 12 回国際サゴシンポジウム				
		欧文	The 12th International Sago Symposium				
主 催		日本サゴヤシ学会					
共 催		立教大学アジア地域研究所					
後 援		上越スターチ株式会社、旭化成アミダス、日本食品化工株式会社					
開催責任者		所属	観光学部				
		氏名	豊田由貴夫 印				
運営事務局		事務担当者					
		氏名	観光学部 豊田由貴夫				
開催期間		2015 年 9 月 15 日 から 2015 年 9 月 16 日まで					
開催場所		立教大学池袋キャンパス太刀川記念館多目的ホールならびに 14 号館					
参加者数※ 1		学内	1 名				
		学外 国内から招聘	17 名	海外から招聘	29 名	7 カ国	
		合計	47 名	8 カ国			
公開講演会等 参加者数※ 2		①	2015 年 9 月 15 日 約 30 名 3 カ国				
		②	2015 年 9 月 16 日 約 30 名 3 カ国				
開 催 日 程			午前		午後		夜
		第 1 日	開会宣言 ゲストスピーチ		全体発表 1, 2		レセプションパー ティー
		9 月 15 日	基調講演		口頭発表 1		
		第 2 日	全体発表 3 口頭発表 2 口頭発表 3		口頭発表 4 口頭発表 5 閉会セレモニー		
		9 月 16 日					
		第 3 日					
		9 月 17 日	(エキスカージョン)		(エキスカージョン)		
※ 3	開催経費総額 (C)		予算額	4, 5 4 0 千円		執行額	6, 0 3 7 千円
	助成申請外資金総額 (B)		予算額	1, 8 3 0 千円		執行額	3, 5 4 5 千円
	立教 SFR 助成額 (A)		予算額	2, 7 1 0 千円		執行額	2, 4 9 2 千円

※1 参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテーター等の活動を伴う者をいう。

※2 一般公開された講演会等に聴講の為に参加した者。講演者、パネラー等は除く。参加者名簿を添付すること。

※3 (A)(B)(C)の金額は、様式5の金額と合わせること。

2. 会議開催趣旨概要

本シンポジウムはサゴヤシに関する総合的な国際シンポジウムであり、数年に1度ずつ（当初は4年に一度、近年は2年に1度）開催されている。2014年に第12回目の開催が立教大学池袋キャンパスで行われることが決定し、今回の開催に至った。サゴヤシとは Metroxylon 属のヤシ科の植物で、樹幹に1本当たり100キログラムを超える多量の澱粉を蓄積する。やせた土地でも生育し、投下労働量に比して生産量が高いことから、東南アジア、オセアニア地域の熱帯低湿地で広く栽培されている。その澱粉は、主食として、あるいは製麺、製菓原料から燃料アルコールまで多岐にわたって利用されている。本シンポジウムはサゴヤシが生育している地域の文化・社会の研究から、植物学、農学、土壌など様々な分野の研究者たちがその研究成果を発表し合い、学術的な交流をはかる場である。

3. 会議の成果概要・今後の展望等

本シンポジウムでは、インドネシア、マレーシアなど東南アジアを中心とする海外からの参加者が40名近くとなり、サゴヤシについて様々な分野からの研究成果の発表があり、多数の研究者との交流が図れた。これまで参加のなかったタイ、フィジーからも参加があり、広範囲の研究交流が図れた。

本シンポジウムは2年ごとに行われることになっているが、次回は2017年にマレーシアのクチン（Kuchin）での開催が決定し、引き続き日本の研究者も参加予定である。

シンポジウムの概要は既に要旨集（Book of Abstract）で示されているが、発表のフル・テキストの原稿は、プロシーディングスでの形で発行される予定であり、2016年3月にDVDの形式での発行を予定している。また同時にプロシーディングスの内容は一部を除いてサゴヤシ学会のウェブサイトで発表される予定である。シンポジウム準備の段階で既に編集委員会が組織されており、シンポジウム終了後にプロシーディングスの編集作業にとりかかる予定である。発行に関わる費用はサゴヤシ学会の負担を予定している。

これに加えて、シンポジウムで発表された内容の主要な部分は、一般向けに書き直した後に、いくつかの論文を付け加えて、英文の単行本として出版予定である。執筆者は約30名で300ページ弱の単行本を予定している。現在、出版について英文の学術誌を専門とする出版社（シュプリンガー社）と交渉しており、2017年の発行を目指している。

4. 会議の構成

(1) 学内参加者

氏 名	所属・職名	会議における活動	内 訳 (学部・研究科))
豊田由貴夫	観光学部・教授	シンポジウム・コーディネーター シンポジウム総合司会	観光学部 1名 名 名 名 名 名 その他 () 計 1 名
変更内容 (氏名、不参加／追加の別) 野中健一氏はポスター発表の共著者としてのみ参加、市川哲氏は他大学に異動しており、都合がつかず不参加。			

(2) 学外参加者 (国内、国外)

氏 名	国名・所属・職名	会議における活動	内 訳
岡崎正規	石川県立大学・教授	口頭発表	国名 人数
山本由徳	高知大学・教授	基調講演	
江原宏	三重大学・教授	口頭発表	日本 17 名
豊田剛己	東京農工大学・教授	口頭発表	インドネシア 17 名
新田洋司	茨城大学・教授	口頭発表	フィリピン 4 名
中村聡	東北大学・教授	口頭発表	マレーシア 3 名
平尾和子	愛国学園短期大学・教授	ポスター発表	タイ 3 名
近堂知子	共立女子大学・准教授	ポスター発表	パプアニューギニア 1 名
近江正陽	東京農工大学・教授	口頭発表 (分担)	フィジー 1 名
John, Foh Shoon	インドネシア・PT Lestari Sago Papua・Director	口頭発表	アメリカ合衆国 1 名
Haska, Nadirman	インドネシア・Agency for the Assessment and Application 所長	口頭発表	
Bintoro, Mohamad	インドネシア・Bogor Agricultural Uni.・Professor	口頭発表	計 8 カ国 47 名
Kopli, B. Bujang	マレーシア・Universiti Malaysia Sarawak (UNIMAS)・教授	基調講演	
Quevedo, Malcero	フィリピン University of the Philippines Mindanao・教授	口頭発表	
Pisit, Charnsnoh	タイ・NPO 団体代表	口頭発表	
Pue, Aisak	パプアニューギニア・PNG 自然資 源科学大学・講師	口頭発表	
変更内容 (氏名、不参加／追加の別) 後藤雄佐氏 (東北大学) が中村聡氏 (宮城大学) に、Flores 氏 (逝去) が Quevedo 氏 (Visaya State University) に、Jaipluem 氏が、Pisit 氏に変更。新本氏 (広島大学) が不参加。その他、口頭発表、ポスター発表申し込み者を多数追加。			